

## 01

話題提供者  
福岡県立育徳館高校  
3年生  
中村唯乃

なかむら・ゆの 高校3年生までバドミントン部に所属。大学ではバイオテクノロジーを学び、将来は、安全で収穫量が高い農作物の開発などに従事したいと考えている。

## 未来につながる「今」を、先生と語り合いたい

先行きの見通せない臨時休業下、高校生は自分の生き方、そして、これからの教師との関係について考えを深めました。生徒と教師の関係、教師の役割について、リレー形式で深めていきます。第1回目は、高校3年生の「自立の気づき」に耳を傾けます。

### 未来は分からないから、「今」を大切にしよう

臨時休業を経験して強く感じたことは、「大切なのは『今』だ」ということです。それまでの私は、進学のことや部活動のことなど、いろいろなことについて先を予想しようとし、どうすればよいかを考えていました。そして、気持ちばかりが焦ってしまい、不安に陥ることがよくありました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行、3か月にも及ぶ臨時休業、そしてインターハイの中止……私が経験したこうしたことは、誰も予想できなかったことでした。3か月前、私が抱いていた漠然とした未来への不安は、「このまま予想通りに日々が過ぎていく」ということが前提で生まれていた不安だったことに気がつきました。

計画は確かに大切です。でも、念入りに計画を立てたことで満足してしまったり、逆に、先の不安や今の自分のマイナス面ばかりが気になって、最初の一步を踏み出す勇気が消えてしまったりすることもありました。

未来は何が起きるか分からない。それでも、「今」が「将来」につながっている。だからこそ、これからは、「今、目の前のこと」を何よりも大切に、全力を注げる人になりたいと思うようになりました。

### 受験生であっても社会とつながりたい

教室という場で教わる学びは、臨時休業中の3か月間、全くなりませんでした。しかし一方で、臨時休業中の私の「学びに対する考え」はとても広がったと思います。

自分が本当になげたい夢は何だろうか、そして、その夢を実現するために、自分の力でどのように勉強を続けていくべきかを考えました。受験生としての自立が始まったように思います。

また、今回の事態によって自宅に閉じこもらざるを得なかったからこそ、外の社会のことに今まで以上に目を向け、「なぜ、このような社会なのか」「私にできることは何か」といったことを、深く考えるようになりました。受験生だからといって勉強だけをするのではなく、受験生であっても今を生きる1人の人間として社会とつながろうとする気持ちを、強く抱いています。

先生との関係に対する考え方も変わりました。先生と私たちとの間には、大人と子どもという違いがあることは事実です。その違いは認めた上で、それでも、対等な関係でありたいと思うようになりました。

臨時休業中、先生とお話する機会は少なかったのですが、先生方が学校再開に向けた準備に尽力してくださっていることは、ひしひしと感じていました。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行がいつ、どのように収束するのかは誰にも予想できないため、先が見えない毎日を送っていたのは、実は生徒も先生も同じだったのです。

振り返ってみれば、これまでの学校生活のほとんどの場面で、私たちは先生に任せきりで、指示待ちになっていたように思います。高校3年生の私たちは、先生方と少しでも近い目線で、これからの学校、これからの社会を考えるようにならないといけないと思うのです。未来は何が起きるか分からないからこそ、「今」を創り上げていくために、私たちも先生たちと語り合うべきなのではないでしょうか。

### 学びを経験知に変えるのがこれからの学校

これから必要な学びは、知識をひたすらためこむような学びではなく、獲得した知識を経験知に変えていくような学びだと言われています。未来は何が起きるか分からないからこそ、学んだことをアウトプットして、ほかの人のアイデアや価値観と融合させて変化させたり、全く別のものを生み出したりする力を得ることが、私たちに必要なこれからの学びなのだと、「コロナ」を経験した今、強く感じています。

これからの学校が、学んだことを経験知に変える場、学びと交流の場になるためには、生徒一人ひとりが、飾らない素の自分を出すことが欠かせません。自分の中の思い込みや周囲の声に流されながら生活するのではなく、40人なら40の、1000人なら1000の、生徒それぞれの考えや価値観が受け入れられる学校であってほしいし、そういう社会を創っていきたいのです。

生徒と生徒、生徒と先生が、未来に何が起きるか見通せない者同士として、どのような「今」を創り上げるのかを語り合える学校、それがこれからの学校なのだと、私は思うのです。